| No. | 資料No. | ページ番号 | 内　容 | 意　　見 |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 第4章　基本目標 | 1 | みどりの多面的機能の活用 | 市が保全を進めている里山の数については候補地の選出が課題であるが、目標に向けて努力してほしい。民間企業との協働は、これからは必要である。人材育成を行い、より一層みどりの活用に関わる人を増やしたい。 |
| 2 | 第4章　基本目標 | 2 | 木材利用の推進 | 八王子産木材の普及・活用は大きな進展がなく、また木質ペレットストーブの申請が少なかったことなど、木材をペレット化する機械の導入、ストーブの国産化、安価で安全なペレットストーブの普及が望ましい。 |
| 3 | 第4章　基本目標 | 2 | 木質ペレットストーブ | 木質ペレットストーブはカーボン・ニュートラルなエネルギー減ではあるが、木材を燃焼せずに利用する方策のほうが二酸化炭素の低減にはより効果があるので、取組からは外すと良い。<br>木質ペレットストーブがさほど普及していないので問題とは認識されていないが、近年に達成した公害ガス排出の低減に木質ペレットストーブは逆行しかねない。石炭ストーブからの公害ガス排出と比べれば軽微ではあるが、中国では家庭での石炭や練炭の熱源利用で重篤な大気公害をうんでいる。 |
| 4 | 第4章　基本目標 | 3 | まちなかのみどりの保全・創出 | グリーンマッチングは期待できないが、農地バンク制度によりマッチングが成立したことは評価できる。<br>庭木選定講習会も増加して、まちなかのみどりの保全になり、その技術を高齢者住宅の庭木の選定に活かしてほしい。 |
| 5 | 第4章　基本目標 | 5 | 良質な水質の保全 | 素晴らしい成果。川にホタルをはじめ水生生物が戻ってきました。 |
| 6 | 第4章　基本目標 | 5 | 成果指標 | 河川の水質の保全として浄化槽の適正管理および下水道への接続をはかるのであれば、成果指標としてBODの河川水質階級Aの達成という浄化槽・下水道には鈍感な指標ではなく、環境省がさだめるいくつかの指標のうち最も密接に関係する大腸菌数に成果指標をあらためるべきである。 |
| 7 | 第4章　基本目標 | 6 | 生物多様性の保全 | 現状の河川の調査は引き続き必要で、積極的に行うべきである。里地・里山を保全する団体の増加は評価できる。ウグイの放流はどこのウグイか、調べてから行ってほしい。外来生物の駆除はしなければならないが、「持ち込まない」規制を強くしてほしい。 |
| 8 | 第4章　基本目標 | 6 | 施策の展開 | 生きものの生息環境の保全・創出の取組にウグイの放流をあげているのは、不適切である。浅川・多摩川水系ではない他県で養殖されたウグイの放流がなされており、それはウグイの遊漁がなされるのであれば漁業の振興とも位置づけられるだろうが、生物多様性の保全という目的からは国内外来系統の水系への導入であり、目的に反するものである。放流のまえにすべき手だて（科学的調査、生息環境の整備など）が多くある。<br>八王子市内の浅川を始めとする川には国外・国内の外来種（カワムツ、カワヨシノボリ、カワリヌマエビ）、国内外来系統（オイカワ、ドジョウ）が漁業目的でのアユの放流に意図せずに混入していたのが原因で導入され、適応度が高いそれら外来の生物が在来種・系統を駆逐している。<br>国内外来系統のウグイを八王子市が意図して浅川に放流することは、生物多様性の保全に反する行為である。日本魚類学会のガイドライン（2005）を参照して、ウグイ放流が妥当ではない理由を理解されると良い。 |
| 9 | 第4章　基本目標 | 7 | ごみの発生抑制と資源化の推進 | 可燃ごみの半分を占める生ごみの資源化が課題であるが、一部事業系の生ごみで堆肥化している事で家庭の生ごみの回収を進め、資源化できるよう、家庭においても排出に気をつけなければならない。食品ロスが重要な課題。 |
| 10 | 第4章　基本目標 | 7 | | ごみの資源化のよい例として、生ごみの堆肥化施設の順調な稼働が企業においてなされているのであれば、それを取り上げると良い。 |
| 11 | 第4章　基本目標 | 9 | 施策の展開 | 事業所の二酸化炭素排出量削減の取組支援が、八王子市の事業所数に比べてきわめて少ない数である。抜本的な取組の再考が必要ではないか。ゼロではない実績数をならべてやっている感を醸すのはよくない。 |
| 12 | 第4章　基本目標 | 10 | 施策の展開 | 再生可能エネルギーの普及としての木質ペレットストーブへの補助はなくしたほうがよい。 |
| 13 | 第4章　基本目標 | 12 | 環境教育・環境学習の推進 | 市民会議が川の学習やみどりの学習に関わっているが、サポーターの高齢化やサポーター育成講座の応募者が少なく、この先が不安である。市民が子どもに対する環境の学習の必要性に関心がない。今後は民間に委託することも考えられる。 |
| 14 | 第4章　基本目標 | | 資源循環とエネルギー | 廃食油がCO2排出が少なく、航空機用再生燃料となるそうだ。事業系の廃食油を回収して、八王子でも実現してほしい。 |
| 15 | 第4章　基本目標 | | 資源循環とエネルギー | 災害時のごみ処理体制の確立<br>いつ起こるか分からない災害に対して、具体的に示されていない。 |
| 16 | 第5章　協働プロジェクト | 1 | 評価 | 評価で「高齢化に伴う担い手の減少の懸念」が述べられているが、里山保全にかかわる運動の進め方を、うまく担い手の継承ができている例などを参照しながら、みなおしてはどうか。 |
| 17 | 第5章　協働プロジェクト | 2 | 生ごみの資源化 | 失敗。ダンボールコンポストは手間がかかるし、成功率が低い。<br>ダンボールコンポストの改善か別方法を決める必要があります。 |
| 18 | 第5章　協働プロジェクト | 2 | 評価 | ダンボールコンポストの取組が続かないのは理由がある。当初に設定した普及の割合の目標にははるかに届かない現況でもあり、ごみの減量化・資源化は別な方法に転換してはどうか。 |
| 19 | 第5章　協働プロジェクト | 3 | | はちエコポイントの利用率の低さ、そもそも登録世帯数5,000が八王子の全世帯数からすると極めて少数であることを見れば、これが市民の省エネにむけた動機づけとしては機能していないのがわかる。この仕組は廃止してはどうか。 |
| 20 | 第5章　協働プロジェクト | 4 | 実績 | 環境教育支援は実績の項にはあげられていない事項が川の学習をふくめて多くある。環境市民会議による支援などをリストするのがよい。 |
| 21 | 第5章　協働プロジェクト | 4 | 環境教育サポート | ここには記載されていませんが、今、最大の問題はサポーターの不足です。<br>それでサポーターを募集したこと良かったです。但し、応募者は想像以上に少なかった。募集方法が悪かったと思います。 |
| 22 | 第5章　協働プロジェクト | 5 | 地域の環境活動との連携 | 環境活動の広がりにつながり良かったです。 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 23 | 第6章　地域の行動 | | | P1「＊＊＊活動を再開したが＊＊＊今後懸念される。」→活動の評価ではない<br>P2「＊＊＊続かない人が多い。」→活動を評価する欄で市民を評価する欄ではない。<br>P3「＊＊＊＊行うとともに＊＊＊＊促した。」→活動の評価ではない。<br>評価の欄は課題に対し立てた施策が適切であったか、効果的であったか、実績が出たかなど、施策が課題解決に貢献したかを記述する欄で、できなかった言い訳や、他人のせいにする欄ではない。 |
| 24 | 第6章　地域の行動 | 中央地区 | | 多くの会員が活発に活動されている。出前講座のタイトルを記入してくださると、もっと内容がわかりやすくなると思います。 |
| 25 | 第6章　地域の行動 | 西部地区 | | 実績中に活動内容が簡潔にまとめられていて、わかりやすかった。 |
| 26 | 第6章　地域の行動 | 西南部地区 | | 川の学習・みどりの学習支援、水辺環境調査など多彩に数多く活動されている。 |